

フォーラム

江戸・東京の礎 「多摩と玉川上水」

— 江戸時代考証の大石学と玉川上水大好きな安島喜一が語る —

(開場 1時30分)

日時：平成26年 **6月8日(日)** 午後1時45分～4時50分

会場：**武蔵野スイングホール** 11階 レインボーサロン

(JR中央線 武蔵境駅 北口1分)

参加費：500円(資料代共)

TEL：0422-54-1313 代)

● I: 漫談

「落語から学ぶユーモア人生」 (1時45分～2時15分)



三遊亭 大王氏 社会人落語家 渡邊一雄氏

日本人はユーモアのセンスがない国民だと国際社会で言われています。実際には日本人独特のユーモアはありますが、それをどのように社会の中で表現していくか、落語から学ぶことが多いようです。



● II: 講演1

「多摩と江戸」 (2時25分～3時15分)



大石 学氏 東京学芸大学教授(日本近世・近代史)

東京都を構成する大きな要素の都心部と多摩。その原型を江戸時代に探ります。江戸時代、都心部は江戸市中、多摩は新田として発達しました。この2つの地域を結んだ要因のうちから、街道、上水、新田、鷹場を検討します。東京オリンピックを視野に入れ、東京都の将来を考えます。

講演2

「玉川上水・野火止分水口の夢」 (3時15分～4時05分)



安島 喜一氏 東大和市文化財専門委員、玉川上水勉強会

東大和市の南限は野火止用水で、玉川上水からの分水口が目の前にあります。野火止地域(現:埼玉県新座・朝霞・志木の各市)には玉川上水が開削される以前に、松平信綱が新田開発の村人たちを入植させているようです。分水口と玉川上水の取り入れ口に、何らかの意思があるのではと歴史的な夢を見ます。

● III: 対談

大石 学氏と安島喜一氏 (4時15分～4時50分)

■渡邊一雄(三遊亭大王)氏

一橋大学法学部卒、MIT スローンスクール卒、三菱電機入社後、米国三菱セミコンダクターの社長。岩手県立大学社会福祉学部教授兼国際社会人研究センター長、日本社会事業大学教授を経て、同大学理事。

■大石 学氏

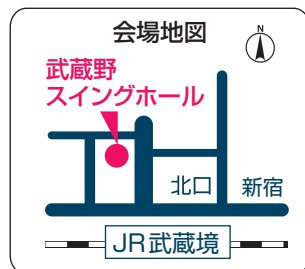
東京学芸大学卒、同大学院修士課程修了、筑波大学大学院博士課程単位取得。日本学術振興会特別研究員。名城大学助教授などを経て、現在、東京学芸大学教授。日本近世史専攻。NHK 大河ドラマ「新撰組」「篤姫」「龍馬伝」、NHK 土曜時代劇などの時代考証を担当。日本時代考証学会会長。

■安島喜一氏

東京経済大学卒業、東大和市役所勤務、大和町史編纂に従事。企画財政部長、収入役。東大和市史編集委員。

著書『変革期の地方自治』(三省堂)出版(1997)。

出演者プロフィール



主催:まなびの雑学実行委員会(NPO 法人小金井雑学大学・NPO 法人東京雑学大学)

助成:(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

問合せ: 0422-52-0908 (東京雑学大学)、080-5645-1477 (小金井雑学大学)